**なごやぬいぐるみ病院診療マニュアル**

**基本事項**

**・ぬいぐるみ＝患者、子ども＝ぬいぐるみのお友達(家族)、学生＝医師、看護師(1人ずつ)。**

・医師は**問診、診察、診断、治療**を主に行う。

・看護師は**カルテの書き取り、最後のおさらい、健康指導**を行なう。

・カルテの記載は基本的に全て**ひらがな**で書く。

**診察の流れ**

**あいさつ→名前記入→問診→診察→診断→治療→指導→おさらい→健康指導**

**1.あいさつ**

こちらから自己紹介をし（身分も）、子どもの名前を聞く。

**2.名前記入**

世間話をしながら、ぬいぐるみの名前・年齢・症状などを簡単にカルテに書き留める。

**3.問診**

①どうしたのかな？（ぬいぐるみの名前も呼ぶ）と問いかけて、ぬいぐるみの病気について子供に自由に話してもらう。

②カルテ欄が埋まるように質問を加える。

**4.診察**

①患部を軽く触る

②各種診察をしながらその診察の意義を説明する。

③聴診器を使い、その説明をし、子供自身の心音を聞かせてあげる（必要ないときは時間が余った時にやる）。

**5.診断**

診断結果（病名やケガについて）を伝える。

**6.治療**

説明をしながら治療を行う。

**7.帰宅後の指導**

ぬいぐるみにしてあげることを教える（ケアの気持ちを持ってもらうようにする）。

※診療が早く終わってしまったら、他に悪いところが無いかどうか調べてあげる。

**8.おさらい**

看護師が行う。名前を教えた医療器具についてはここで言わせてみて、覚えていなかったらまた教えてあげる。宿題についても確認する。

**9.健康指導**

子供自身の健康管理を促す（季節をきちんと反映させる。症状、処置、生活指導に詳しく記す。その日のぬいぐるみの疾患に関連した内容のものであるとなお良いが、ここではあくまで子どもにこの先ずっと続けていってもらいたいようなことを指導内容として適当であると考える）。

**【オプション】**

３日後にカルテを回収し、子どもが帰宅後の宿題や自分の健康管理をすることができたかを確認し、医師のコメント欄にコメントを書いて子どもに返す。

**練習してみよう！**

　**かぜ**と**けが**を想定して実際に練習してみましょう。言葉づかいについては周りのスタッフに聞いてみてください。もちろんていねいな言葉づかいが必要ですが、幼稚すぎないよう注意したほうが良いと思います。

**かぜ**

1. 熱を計る。
2. 聴診器で聴く。
3. 舌圧子（アーンするやつ）で咽喉の様子を見る。
4. 風邪と診断。
5. 注射。
6. 処方箋：きちんと布団をかけてあげる。etc．．．
	* 生活指導

・暖かくしてあげる。

・野菜を食べる。

・外から帰ったときは手洗いうがい。

**けが**

＜骨折＞

1. 骨折と診断。
2. ギプス（にあたるもの）をする。
3. 「今晩は痛いけど我慢してね」→痛み止めを出す。

＜捻挫＞

1. 捻挫と診断（骨折ではないことを説明する）。
2. 包帯で固定する。
3. 痛み止めを出す。

＜擦り傷、外傷＞

1. ひどい状態ではないことを告げる。
2. 消毒してぬりぐすりをする（バンドエイドができるならそれも可）。
3. 痛み止めを出す。

**子供は予想外の症状も訴えます。臨機応変に対応しましょう。**